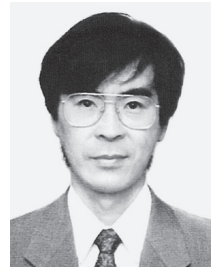


## 画像符号化・映像メディア処理レター特集の発行にあたって



画像符号化・映像メディア処理レター特集編集委員会

委員長 八島 由幸

画像圧縮符号化や映像メディア処理の研究開発に対しては、世の中のネットワーク環境やコンピュータ環境の進展が著しく、常に新しい観点からのチャレンジが必要とされる。本レター特集は、該分野における最新の研究動向をいち早く本会会員の皆様知って頂きたいという趣旨から、本学会画像工学研究専門委員会の主催で毎年秋に開催されている、画像符号化シンポジウム (PCSJ) 及び映像メディア処理シンポジウム (IMPS) と連動して企画されたもので、今回が第7回目となる。本特集における採録件数 (投稿件数) の推移は、第1回から順に28件 (50件), 36件 (49件), 20件 (31件), 25件 (35件), 17件 (19件), 17件 (26件) であり、今回第7回は、22件の投稿中15件が採録となった。採録論文の内容を見ると、15編中符号化関連が6編、映像メディア処理関連が9編となっており、分野的には、雑音除去や復元に関する研究が5編、三次元映像関連の符号化や処理が5編、HEVC関連技術が3編、その他2編となっている。

今回は画像符号化関連の投稿が例年よりも少なめであったが、昨年度は次世代国際標準であるHEVC (High Efficiency Video Coding) が実質的に標準化最終年に入っていたことにも関係しているかもしれない。HEVCは2013年1月に最終草案がまとめられたが、最適化の柔軟性が更に広がり、対象も今後4kや8kな

ど高精細画像に移ってくるので、高画質化制御手法とともに膨大な演算量の扱いが今後の大きな研究テーマの一つとして浮き彫りになっている。映像処理の分野では3D系の研究が引き続き活発であるが、ビッグデータの時代を反映して膨大なデータベースの活用や、分散するPCの連携により圧倒的な計算パワーを利用するなど新しい研究の方向性が見え始めている。今回の特集をきっかけにこのような方向の研究活性化が期待できると考えられる。

最後に、今回、貴重な研究成果を投稿頂いた方々、本特集編集委員、査読委員の皆様、そして本企画をサポート頂いた和文論文誌D編集委員会の関係各位に感謝の意を表したい。

やしま よしゆき  
八島 由幸 (正員) 1981名大・工・電子卒、1983同大大学院工学研究科電子工学専攻修士課程了。同年、日本電信電話公社 (現NTT) 入社。2004～2007東工大大学院理工学研究科連携教授。NTTサイバースペース研究所画像メディア通信プロジェクト映像符号化技術グループ研究グループリーダーを経て、2009より千葉工業大学情報科学部教授。これまで主として画像圧縮符号化、画像信号処理、MPEG関連システムの研究開発に従事。2004高柳記念奨励賞、2004及び2008画像符号化シンポジウムフロンティア賞、2008 FIT2008船井ベストペーパー賞、2009情報処理学会標準化貢献賞受賞。博士 (工学)。情報処理学会、映像情報メディア学会各会員、IEEEシニア会員。

### 画像符号化・映像メディア処理レター特集編集委員会

委員長	八島 由幸	
幹事	井口 和久・久保田 彰	
委員	市ヶ谷 敦郎・加藤 嘉明・川田 亮一・高橋 桂太	
	筒口 拳・内藤 整・浜本 隆之・坂東 幸浩	
	藤井 俊彰	